



|名古屋市の教育改革の取組を紹介|



# NAGOYA School Innovation

ナゴヤ・スクール・イノベーション

名古屋からはじまる  
子ども一人一人のための  
新しい学びづくり

名古屋市教育委員会

## これから求められる教育とは

人生100年時代やSociety5.0（ソサエティ5.0）という新たな時代を迎えようとする現代社会では、グローバル化や少子高齢化、ICT化が急速に進展し、私たちの暮らしや価値観などがごく短期間に大きく様変わりしています。また、未来社会に向けて世界が国際協調により取り組むべき社会課題も数多く存在しています。こうした課題を解決するためにSDGs達成に向けた取組なども、世界中で活発になってきています。

このような現代と未来を生きる子どもたちには、激しい社会の変化を前向きに受け止め、先の見通せない状況の中でも、新たな挑戦をしたり自分を高めたりしながら、たくましくなやかに変化や逆境を乗り越え、よりよく自らの人生をきり拓いていくことが期待されます。

そのためには、子どもたちが学校という一つの社会を共に生きる中で、自分のよさや可能性に気づくとともに、自分で課題を見つけて学習を進めたり、多様な立場の人々と協働しながら新たな価値を生み出したりできる資質・能力を育めるように、学校教育をイノベーションしていくことが求められています。



## NAGOYA School Innovationとは

「NAGOYA School Innovation（ナゴヤ・スクール・イノベーション）」では、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもを育むため、大人が子どもに伴走し、「子ども中心の学び」を進める学校づくりを推進しています。



「ナゴヤ学びのコンパス」は、名古屋市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示したものです。

名古屋市の学校園では、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、全ての教職員が対話を重ねながら、それぞれの学校園や子どもたちの実態に合った教育について考え、実践を進めていきます。そして、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしていきます。

## 教育長からのメッセージ



名古屋市教育委員会 教育長  
**坪田 知広**  
Tomohiro Tsubota

子どもたちを取り巻く社会の状況は、目まぐるしく刻一刻と変化しています。予測困難な将来を生き抜いていく子どもたちに対して、学校教育には、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えること、そして豊かな人生をきり拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められます。

こうしたなか、名古屋市教育委員会では、幼稚園から高等学校まですべての校種において、「ナゴヤ・スクール・イノベーション」を通して、子どもたちが、自ら主体的に課題を設定し、多様な他者と協働しながら学びを進め、振り返りながら責任ある行動が取れる力を身につけることができるよう、子ども主体の授業への改善を進めています。

400校を超える市立学校園を挙げて進めているこの取組は、我が国の教育改革を推進するエンジンの役割を果たしていくものと考えています。

## アドバイザーからのメッセージ



哲学者・教育学者  
熊本大学大学院 教育学研究科  
准教授  
**苫野 一徳**  
Ittoku Tomano

これまでの150年間、日本の学校教育は、「みんなで同じことを、同じペースで、同質性の高い学年学級制の中で、できあいの問いと答えを勉強する」システムとして続いてきました。落ちこぼれや不登校を始めとする、様々な問題の最大の理由はこのシステムにあります。

しかし、そこからの大きな転換が、全国的に起こり始めています。名古屋市は、自治体規模でその転換に取り組むフロントランナーです。転換の一つの軸は、私なりに言えば「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」です。子どもたちが、自分のペースで、自分に合った学び方で、「ゆるやかな協同性」に支えられながら学び合う。カリキュラムの中核は、自分たちなりの深い問いを探究する、様々なワクワクできる“プロジェクト”です。

名古屋からどんな実践が登場し、また全国に波及していくか。とても楽しみにしています。そして微力ながら、全力で応援したいと考えています。



# NAGOYA School Innovation の歩み

2019 (令和元) 年度

2020 (令和2) 年度

2021 (令和3) 年度

2022 (令和4) 年度

2023 (令和5) 年度

2024 (令和6) 年度～



## モデル実践校「矢田小学校」

個別最適な学びを推進するため、小学校1校において民間教育研究機関と連携した実践研究を進めました。他校に先駆けてICT環境を整備し、いち早く一人1台のタブレット活用をすすめる中で、子ども自身がわくわくする課題を設定し、課題解決のための計画を立て、探究し、成果を発表する学びである「プロジェクト型学習」の実践に取り組み、子ども主体の学びを実現してきました。 →P8



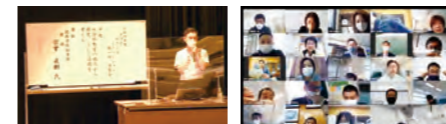
市全体で学びの転換を進めていくために、教員個々のチャレンジの輪が広がるよう、新しい学びの教育実践に取り組む教員を公募・選考し、教育実践・教育研究を支える取り組みを行ってきました。

**実践者** 毎年8名の実践者が先進的な学校園の視察研究を通して教員間で学び合いながら授業計画の検討を進め、学級・教科等で授業改善の実践に取り組んできました。2019年度はオランダ海外視察を実施しました。

**視察研究者** 特色ある教育に関する文献調査や先進的な学校園の視察研究に取り組んできました。

## 学習会

学びの転換期にある教員の意識改革やスキルアップを進めていくため、すべての市立学校園の教職員を対象とした自主参加型の「学習会」を定期的開催し、有識者の講演やワークショップ、学校園の実践事例紹介などを行ってきました。



## 公開授業

実践校園での学びの改革の取り組みの様子を他学校園等にも知っていただくために、公開授業を行ってきました。公開授業には校長から若手まで幅広い教職員が多数参加し、「子ども中心の学び」の実現に向けた実践校園での取り組みを基に、活発な意見交換が行われ、その後自分の学校園での取り組みに生かされています。



## 「ナゴヤ学びのコンパス」策定に向けて

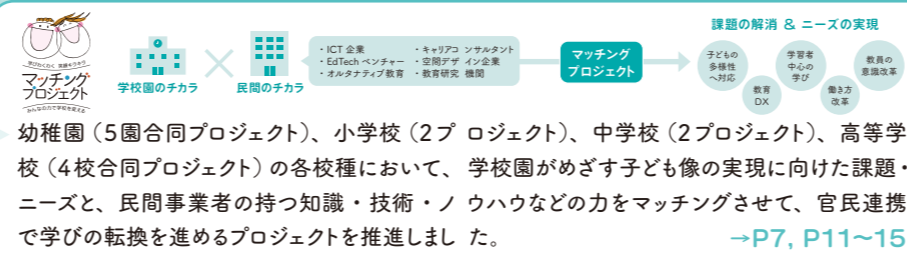
名古屋市の学びの基本的な考えとなる「ナゴヤ学びのコンパス」の策定に向け、学識経験者や学校関係者、保護者代表などに参画していただき、2022年7月より6回の検討会議と8回のワーキンググループを行いました。実践校で得られた成果を生かすとともに、ワークショップやシンポジウム、子どもアンケートや対話を通して、子どもたちや市民、教職員や保護者など多くの方々の声を反映しながら策定しました。 →P5, P16



2023年9月 「ナゴヤ学びのコンパス」策定

## プロジェクト型学習実践 「矢田中学校ブロック」

矢田小学校によるプロジェクト型学習の実践を、中学校ブロックを同じくする、砂田橋小学校と矢田中学校へ広げ、プロジェクト型学習実践校として、中学校ブロック連携、小中連携の実践を進めました。 →P9～10



## ナゴヤ・コンパス・プロジェクト

これまでの授業改善の推進に向けた取組と働き方サポート事業の成果を、5つのプロジェクトに再構築し、「ナゴヤ学びのコンパス」を基にして一体的に推進していくために、「ナゴヤ・コンパス・プロジェクト」として展開しています。 →P6, P17～21



## 働き方改革サポート事業

学校の当たり前を見つめ直し、子どもにとっても大人にとっても幸せな学校づくりを支援するための取り組みを始めました。

「ナゴヤ学びのコンパス」を基にした名古屋の教育がスタート

## 対話集会

自律して学び続ける子どもの育成をめざし、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしていけるよう、校長対話集会や、教務主任対話集会などを実施しています。 →P16



2023校長対話集会

ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもを育むため、大人が子どもに伴走し、「子ども中心の学び」を進める学校づくりを推進

全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくために、  
**「子ども中心の学び」**を幼児期から青年期まで一貫して大切にします

## 名古屋市の学校教育を通じて目指したい姿

### 実現したい市民の姿

自由な市民として互いを認め合い、  
共に社会を創造する

### 目指したい子どもの姿

ゆるやかな協働性の中で  
自律して学び続ける

### 重視したい学びの姿

自分に合った  
ペースや  
方法で学ぶ

多様な人と  
学び合う

夢中で  
探究する



## どの学校園でも大人が大切にしたいこと

**子どもは有能な学び手**であると理解し、子どもの学びに伴走する

子ども一人一人の  
思いや願いを尊重する

子どもと対話する

子どもの自分なりの  
チャレンジを大事にする



### 実現したい市民の姿

人は誰もが「自由」に、つまり、自分らしく生きたいように生きてほしいと願っています。ここで掲げる「自由な市民」とは、自分も他者も全ての人の自由を尊重する市民のことを指しています。私たちは、未来を生きる子どもたちが、こうした「自由な市民」として社会の創り手に成長していくことが、本市の学校園の教育を通じて目指すべき姿であると考えています。



### 目指したい子どもの姿

子どもたちが必要に応じて、仲間や大人力を借りたり、自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」のもとで一人一人が自律して学び続けている姿が、目指したい子どもの姿です。



### 重視したい学びの姿

「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の考え方に基づく名古屋市の実践を踏まえて、大切にしたい三つの要素を取り上げました。これまでも、これからも大切にしたい姿です。

### すすめるプロジェクト

「ナゴヤ学びのコンパス」をもとにした「子ども中心の学び」の実現に向けた実践を行います。



### つながるプロジェクト

共通した教育目標や教育課題などに対し、複数の学校園の連携による学び合いを図りながら、主体的に学びを展開するチーム実践を行います。



### ひろがるプロジェクト

各学校園で「子ども中心の学び」の考えが共有され、実践の輪が広がるよう、授業公開や有識者の講演、ワークショップ等を通じて、教員のマインドセットチェンジやスキルアップ等を行います。



### かいぜんプロジェクト

学校の当たり前を見つめ直し、子どもにとっても大人にとっても幸せな学校づくりをめざします。



### つくりてプロジェクト

選抜教員が、国内外の先進事例の視察研究を生かし、学校運営改善や授業改善を行います。



# 名古屋市立幼稚園

5園共同のプロジェクト

名古屋市立第一幼稚園 名古屋市立第三幼稚園 名古屋市立吹上幼稚園  
名古屋市立荒子幼稚園 名古屋市立鳴子幼稚園

## 実践テーマ

- 園児が自由な発想で様々な遊びを創出することや自分の学びを振り返ることにつながる環境づくり
- 園児一人一人の思いや体験を記録し、子ども・保護者・教員が情報共有して子どもを育むコミュニケーションづくり

## 1 ICTで深まる・広がる遊び!

園児の思いは、自由に遊びを進める中で「こんな風にしたかった」と広がっていきます。タブレット（検索機能、アプリなど）を道具の一つとして使えるようにしたことで、色々なことに気付いたり取り入れたりして、園児が思いを実現させていく過程での学びが充実していきます。



## 2 園児の育ちを分かち合う

園児の活動を写真や動画等で記録し、教員同士で共有したり、保護者の方のスマートフォン等に配信したりしています。園児の育ちを分かち合い、共に支えるためのよりよいコミュニケーションづくりを進めています。

### 保育ドキュメンテーション

園児の活動を、写真や動画、文字などで継続的に記録しています。園児が自分の成長に気づいたり、活動を深めたりすることにつながっています。また教員も、その時々では見逃しがちな園児の視線、表情などを記録で確認でき、一人一人の深い見取りにつながっています。



## 3 園業務のデジタル化

園業務の省力化を進めるために、登降園管理や欠席連絡などに ICT を活用しています。教員が一人一人の園児に向き合ったり、保護者の方とのコミュニケーションを図ったりするための時間確保につながっています。



### 保護者の方の声

朝は一日の中で一番忙しい時間です。欠席や遅刻の連絡がアプリで簡単に行えるようになり、とても助かっています。

# 名古屋市立矢田小学校

Nagoya City YADA Elementary School

## 実践テーマ

自分で考え、人と学び合い、ワクワクしながら進めよう!  
— プロジェクト型学習とプロジェクト型学習の要素を取り入れた教科における学びの個別化・協働化・プロジェクト化 —

## 1 自分の問いを探究する

児童がワクワクする問いを自ら立て、自分なりの見通しをもって自分の力でやりとげる探究的な学び（PBL：Project Based Learning）に取り組んでいます。児童は、自分の問いからプロジェクトのゴールを設定し、ワクワクする気持ちを原動力に、試行錯誤しながらゴールに向けて学習を進めます。



### 実体験や本物との出会い

児童がワクワクする自分事の問題を立てられるように、実体験や本物との出会いを大切にしています。そのために、特に「ふれる」活動では、積極的に外部の方々と連携しています。



## 2 プロジェクト型学習の要素を効果的に取り入れた教科学習

各教科の学習においても、プロジェクト型学習の要素を取り入れています。その時の学習内容やめあてを自己選択し、自分にあった方法やペースで、必要に応じて考えを交流しながら学び、振り返りを行う、という流れを教科学習の中に取り入れて取り組んでいます。



### 複線型の授業

児童が自己選択して、自分に合った方法やペースで学ぶ複線型の授業も行っています（例えば、教員からミニ講義を受ける、自分で教科書を使って学ぶ、自分でタブレットを使って学ぶ）。

## 3 子どもが主役

学びの主役は子どもです。教員が手取り足取り児童に教え、失敗しないように導くのではなく、児童の自己選択・自己決定を尊重し、時には失敗も経験しながら自分の力で学びとっていく過程を重視しています。

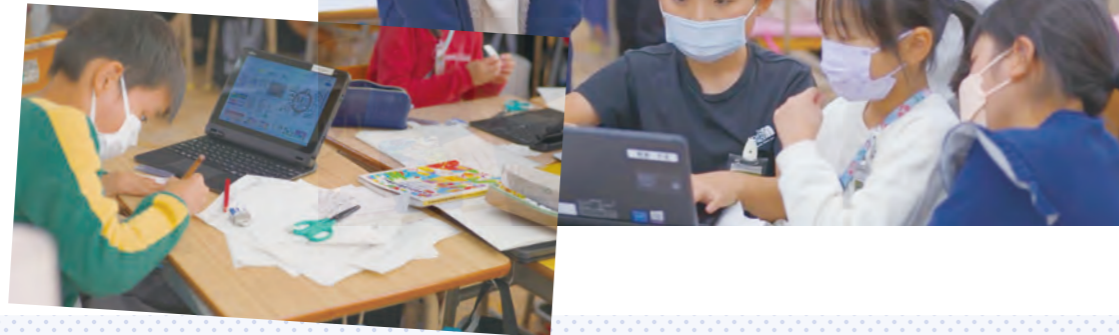
### ファシリテーター

ファシリテーションとは、ものごとを活性化したり整理したりと、活動のプロセスをサポートすることです。子ども主体の学びでは、教員はファシリテーターとしてかかわります。

# 名古屋市立砂田橋小学校

Nagoya City SUNADABASHI Elementary School

「自分で考え、やってみよう! — 探究的な学びPBL を取り入れて—」をテーマに掲げ、子どもの自己選択・自己決定に基づいた活動を重視し、仲間と協力しながら、自分の問いを解決していく子どもの育成を目指しています。



# 名古屋市立矢田中学校

Nagoya City YADA Junior High School

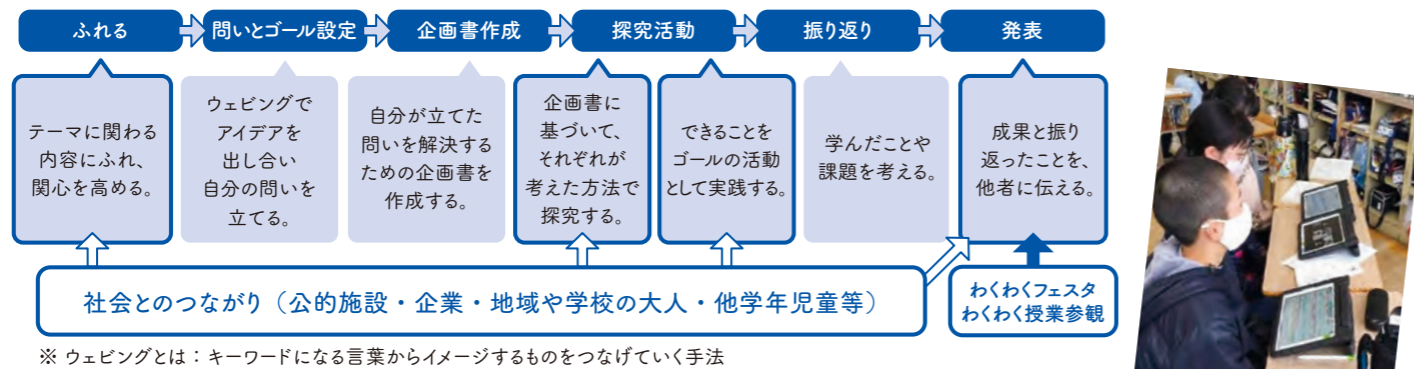
プロジェクト型学習として、1年生は「よりよい街（学区）づくり」、2年生は「SDGs・自分にできる社会貢献」、3年生は「ビジネスの力でSDGsを推進」、特別支援学級は「身の回りの疑問を明らかにして生活に生かす」に取り組んでいます。主体的・協働的に学びを進めることにより、自己選択・自己決定する力、課題解決を図る力、自分のよさを発揮する力の育成を図り、「互いの良さを大切にして、自分らしく生きる力の育成」を目指します。



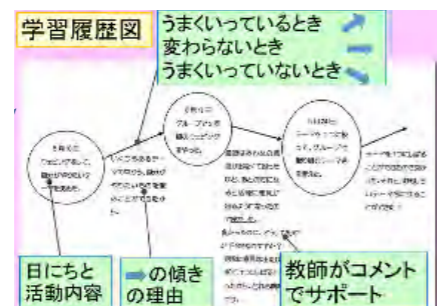
## 探究的な学び (PBL) を重視した総合的な学習・生活科

※ PBL (Project Based Learning) は、子ども自身が問いを設定し、課題解決のための計画を立て、探究し、成果を発表する探究的な学びです。

### ● 基本的な学習の流れ



### ● 子どもが自走するための手引き「ログブック」



教師が伴走する際に、手がかりとする「学習履歴図」(子どもが記録していき、教師がコメントを入れる。)

### ● わくわく学習でつきたい力 (矢田小学校の例)

つきたい力	具体的な姿
わくわく発見力	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や学習の中から疑問を発見することができる。</li> <li>疑問を解決することにわくわくすることができる。</li> </ul>
わくわく解決プランニング力	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決のための見通しやゴールをもつことができる。</li> <li>解決のための計画を立てることができる。</li> </ul>
わくわく探究力	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を活用することができる。</li> <li>必要な情報を集める (低学年) 分類・整理する (中学年) 情報から、自分なりの考えをもつ (高学年)</li> <li>課題解決に粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>
伝えたいことを表現する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>自分の考えを適切な方法で表現することができる。</li> </ul>
他者と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者と協力して課題を解決することができる。</li> <li>他者の思いや考えを受け止めることができる。</li> <li>他の考えを理解する (低学年) 比較しながら聞く (中学年) 異なる考えを大切にしながら他者と関わる (高学年)</li> </ul>
自己を見つめる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びを振り返りながら、ゴールに向かうことができる。</li> <li>学んだことを生活や学習に活かすことができる。</li> <li>社会・地域の一員として考え、行動することができる。</li> </ul>

自己選択・自己決定しながら自走する子どもに、教師はファシリテーターやアドバイザーの役割を担い、伴走します。



## 実践テーマ

子ども一人一人の個別の発達に焦点をあて、違いから豊かに学び合う環境の中で、子どもたちが自らのペースで、自らの興味・関心や能力、進度に応じて、自立して学ぶことを最大限に尊重する学びづくり

## 実践テーマ

子どもたち一人一人が、人と豊かにつながり、できる喜び・楽しさを実感することができる学びづくり

## 1 自分のペースで学ぶ

児童が自ら学習計画を立て、自分にあったペースや方法で学ぶ時間（週に5～10時間程度）を設けて、児童が主体的に学習を進めています（山吹セレクトタイム）。



### サークル対話

円になり、児童がお互いに顔を見合わせながら考えを交流します。一人一人が尊重される大切さなどを学び、児童が安心して学べる環境が育まれていきます。

### 自分の時間割

児童は、各教科の単元進度表に基づき、自分で1週間の時間割を考えます。単元進度表には、教材、ゴール、探究などの幅広い選択肢が掲載されています。

単元	教材	ゴール	探究
算数	九九の歌	九九を暗記する	九九の歌を創作する
国語	おとぎ話	おとぎ話の筋を説明する	おとぎ話の絵本を作る
英語	挨拶の言葉	挨拶の言葉を覚える	挨拶のカードを作る
音楽	うた	うたを覚える	うたを演奏する
体育	運動	運動を楽しむ	運動の記録を作る
総合	生活	生活を楽しむ	生活の記録を作る

黄色の欄は、自分で1週間の学びを計画！

## 2 異年齢で学ぶ

3学年混合の異学年グループ（低学年1～3年生、高学年4～6年生）で、役割分担したり、お互いの考えや意見を交流・共有したりしながら、問題解決型の学習に取り組んでいます（ふれあい活動）。

### いろいろな立場を体験

3学年混合の活動では、児童は教えられたり、助けたりする立場などを繰り返し体験します。その中から、児童は他者の理解やコミュニケーションの方法を学んでいきます。



## 3 子どもの学びを支える

児童の多様な学びを支えるため、遊びの活動から協働する力を育んだり、掲示物を通して学びにおける大事な価値観を共有したりしています。教師は児童が自ら学習を進められるよう支援します。

### 様々な掲示物

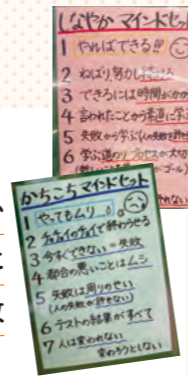
「マインドセット」や「学ぶ技能」を示す掲示物を通して、学びにおける大事な価値観を子どもたちと共有しています。

### 遊びから学ぶ

活動の中には、ゲームやアクティビティの時間も設けています。遊びから、お互いの個性を理解したり、協働する力を育んだりしています。

### 教員の役割

教員は、児童が自ら学習を進められるように環境を整えます。また、児童の様子を丁寧に見取り、学習の進度やつまづきを把握して、一人一人に適切な支援を行います。



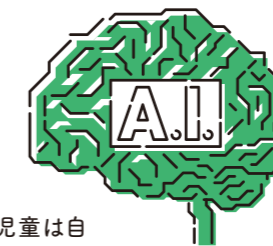
## 1 みんながわかる、楽しい授業

算数科の授業を軸として、全員で進める一斉の学習と、デジタルドリルを活用して個人で進める個別最適な学習とを一時間の中でバランス良く組み合わせ、児童の「できる！」気持ちを引き出す授業づくりに取り組んでいます。



### 個別最適な学びとAI型デジタルドリル

AI型デジタルドリルは、児童の解答を分析し、理解度（誤答の原因）を判断して次の問題を出题します。児童は自分の習熟度やつまづきに応じて最適な問題に取り組めます。

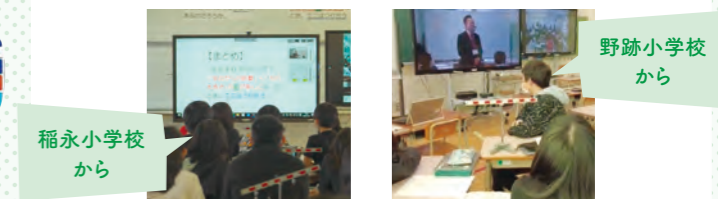


## 3 言語のバリアフリー

母語が日本語ではない児童も数多く在籍しています。児童の日本語のレベルに合わせてオンラインの語学支援など、個別支援に取り組んでいます。

## 2 教室がつながる

2校間の教室がオンラインでつながる遠隔合同授業を行っています。児童がお互いに考えを伝え合ったり、認め合ったりする機会が増えるとともに、学習内容の深まりや広がりにもつながり、規模の小さい学校では得難い経験がICTで実現しています。

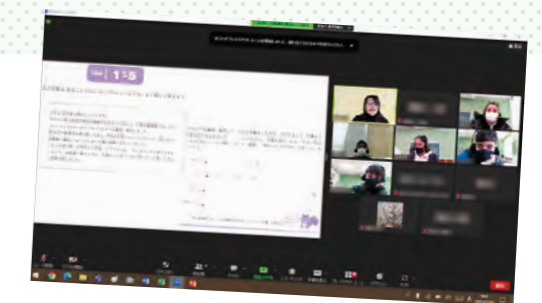


### 複線型の授業

2校間では児童のつながりも深まっています。中学校を同じくする児童同士の交流は、今後中学校へ進学し、新しい環境での学習や生活へ移行する上でとても意義があると考えています。

### 教員同士もつながる

遠隔合同授業では、教員同士もお互いの専門性を生かした授業を見合うことにつながり、切磋琢磨する機会が生まれています。



# 名古屋市立前津中学校

Nagoya City MAEZU Junior High School

## 実践テーマ

- わくわくする好奇心をベースに、生徒一人一人が自分らしさを理解し、自分らしく生きていくための未来につながる体験ができる学びづくり
- 互いの存在や違いを認め合い、それぞれが自分らしさを安心して表現できる居場所づくり

## 1 地域社会を探究する

地域社会をフィールドとして、3学年合同のチームで探究学習を進めています。生徒は、地域の企業・団体が社会に生み出す価値を体験的に学びながら、その新たな可能性を考え、地域をよりよくするためのアイデアを協働して創り上げていきます。

探究学習の発表の様子



### 活動のルール

「発見を楽しもう」「どんな考えでも言葉にしてみよう」「たくさん試してみよう」が生徒たちのルール。3学年合同の活動にあたって、生徒が安心して学びに向かうための仕掛けであり、自らの思いを表現することにつながっています。

## 2 自分の生き方を考える

キャリアコンサルタントの国家資格をもつキャリアナビゲーターが常駐し、生徒が自分自身の生き方を考えたり、学校での学びと未来のありたい姿とを結びつけたりするためのサポートを行っています。

※キャリアナビゲーター：名古屋市内全ての中学校・特別支援学校・高等学校に配置。

### ライフキャリアとは？

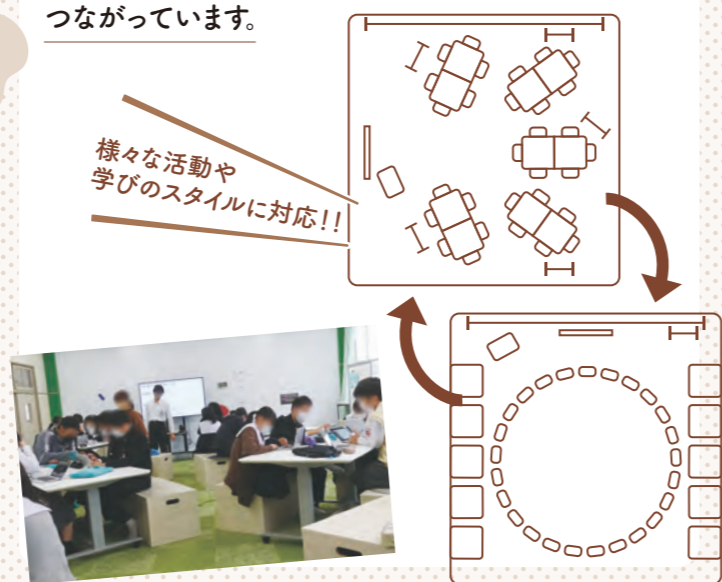
仕事だけでなく、家庭生活、地域活動、趣味など、生涯にわたる様々な役割や経験の積み重ねのことをいいます。進学や社会に出る前の早い段階から、自分らしい豊かなライフキャリアをデザインする力を育てていくことが重要だと考えています。



## 3 柔軟性のある空間の活用

生徒の主体的な活動を支援するため、柔軟性のある空間を活用しています。多様な学習内容・学習形態を可能とし、生徒のもつ豊かな創造性を発揮できるようにしています。休み時間や放課後の居場所にもなり、快適な学校生活や生徒の交流促進にもつながっています。

様々な活動や学びのスタイルに対応!!



# 名古屋市立八幡中学校

Nagoya City YAWATA Junior High School

## 実践テーマ

- 生徒の学び方と教員の働き方を楽しくする、ICTを最大限に生かした学校づくり
- 多様な仲間と協働し、自分たちの手で学校を楽しむ、生徒が参画する学校づくり

## 1 生徒の学び方改革

ICTを効果的に活用して、生徒が自分に合った速度で学習を進めたり、学習状況を振り返ったりしています。生徒の「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」といった観点を重視した授業づくりを進めています。



### 思考力・判断力・表現力 テストの取組

生徒が解答をタブレットに録音する様子

これからの時代を担う生徒は、知識・技能を身につけるだけでなく、現実的な状況の中でそれらを使いこなす能力を身につける必要があります。そのため、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす評価手法であるパフォーマンス評価型のテストに取り組んでいます。

## 3 生徒参画の学校改革

学校行事の企画運営など、生徒が学校づくりに参画できる機会を増やしています。教員も生徒も同じ学校の創り手と位置づけて学校改革を進めています。



生徒の企画が実現した「高等学校出前授業」

## 2 教員の働き方改革

ICTを効果的に活用して、テスト採点業務の効率化(※)や、生徒の学習状況の可視化などを行っています。教員が生徒一人一人に向き合うための時間を生み出し、生徒への適切な支援につなげています。

※デジタル採点システム：名古屋市内全ての中学校・高等学校に導入。

1月からのローテ担任表

	1/10~	1/16~	1/23~	1/30~	2/6~
A組	日比	加藤	高橋	土屋	牧
B組	土屋	牧	日比	加藤	高橋
C組	加藤	高橋	土屋	牧	日比



テスト採点業務の効率化

2月からのローテ担任表

	2/13~	2/20~	2/27~	3/6~	3/13~	3/20~
A組	日比	高橋	加藤	土屋	牧	高橋
B組	土屋	日比	牧	加藤	高橋	牧
C組	加藤	牧	土屋	高橋	土屋	加藤

担任のローテーション制を試行導入し、学級の垣根なく先生同士の情報共有が行われています

学年担任制

生徒主体で取り組んだeスポーツ大会



### 学校そのものを学びに生かす

学校は、生徒が社会に出るための準備をする場所であり、社会的自立を育てていく重要なフィールドです。そのため、生徒が自分たちで考え、合意形成し、実行するといった活動を実践できるように、学校そのものを生徒の学びのリソースに位置づけています。



# 名古屋市立高等学校

4校合同のプロジェクト

名古屋市立緑高等学校  
名古屋市立富田高等学校  
名古屋市立北高等学校  
名古屋市立山田高等学校

## 実践テーマ

生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成

## 1 一人1台 タブレットの活用

協働学習ツール、デジタルドリル等の学習アプリを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組んでいます。



タブレットを活用した  
発表活動（富田高校）

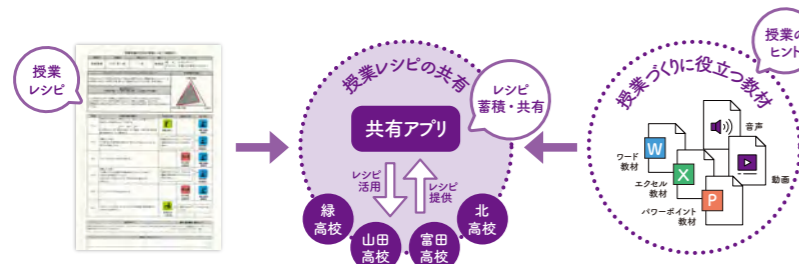
## 高等学校における ICT 活用は？

各校では、学習に活用できる様々なアプリケーションを試用利用して、めざす教育活動に向けた効果的な ICT 活用を進めています。



## 2 垣根を越えた 学び合い

高等学校では、それぞれの学校が生徒に合わせて独自の教育課程を編成しています。学びのあり方が変革期を迎える中で、効果的に授業改善を進めていくため、ICTを活用して学校間で教育活動や創意工夫の共有を図るなど、垣根を越えた学び合いを加速させています。



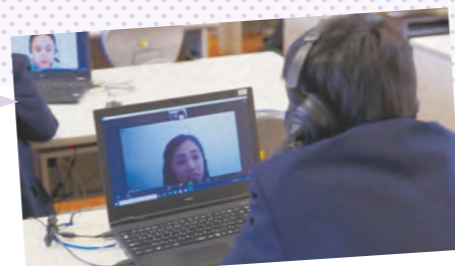
## 授業レシピ

本プロジェクトにおける実践事例や他都市の先進事例などを「授業レシピ」と名付けて蓄積・共有しています。各校が、他校のレシピや教材等を参考にしながら授業づくりを進めています。

## 3 学校の特徴を 伸ばす

各校がそれぞれの特徴をさらに伸ばすため、本プロジェクトの中で、グローバル教育やキャリア教育の充実に取り組んでいます。

オンライン英会話  
（緑高校）



## 「ナゴヤ学びのコンパス」の策定

名古屋市の目指す「子ども中心」の学びの考えを明確に示し、全ての教職員が共通認識をもって学びの改革を進めることができるよう、モデル実践校等での授業改善の実践の積み上げの中で得たエッセンスを文言化し、学識経験者や学校関係者等で構成する検討会議において議論を重ね、「ナゴヤ学びのコンパス」を策定しました。

### 学識経験者

熊本大学教育学部 准教授 苫野一徳氏  
独立行政法人教職員支援機構 理事長 荒瀬克己氏  
上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須正裕氏



## 校園長対話集会 (令和5年9月19日)

ナゴヤ学びのコンパスの基本的な考えを全校長園が理解し、共通認識のもと、中学校ブロックで連携を図りながら、各校園の学びをすすめることができるために開催しました。

### ナゴヤ学びのコンパスの公表



### 中学校ブロックミーティング

R5は、各区ごとに校園長、教頭、教務それぞれがブロックミーティングを行いました。



### パネルディスカッション

「ナゴヤ学びのコンパス」が目指す学びって何？  
「ナゴヤ学びのコンパス」が目指す学びがなぜ必要か。  
子どもが「自律して学ぶ」「自走する」とは？  
大人が「伴走する」とは？  
校園長として何から始めたらいいか。  
幼児期・学童期・青年期の学びをつなげていくには？



パネラー：実践校園の校園長

### 「中学校ブロックミーティング」での声

- ・中学校ブロック内で相互の授業参観を行っていききたいね。
- ・どのような子どもを育てていくのか、中学校ブロック内で対話し、文言をそろえていくのもいいね。
- ・声を掛け合って、公開授業に幼小中の先生と一緒に参加するのもいいね。

Challenge  
すすめるプロジェクト

「ナゴヤ学びのコンパス」をもとにした「子ども中心の学び」の実現に向けた実践を行っています。

実践校園

栄小学校

実践テーマ

学校まるごと！自分たちでDo!  
～自律した学び手が育つ学校づくり～



弥富小学校

実践テーマ

主体的に学ぶ児童の育成  
～単元内自由進度学習を通して～

第二幼稚園

実践テーマ

自分が大事、友達が大事  
～一人一人の今に目を向けて～



猪高幼稚園

実践テーマ

“知りたい”“やりたい”と心を動かし、  
主体的に遊ぶ幼児の育成  
～幼児期の学びを小学校につなげる～

南特別支援学校

実践テーマ

ひとりひとりのきらり☆  
みんなと輝ききらり☆  
～子ども中心の学び場づくり～



日比野中学校

実践テーマ

「楽しいひびの創造」  
～子ども一人一人の学びを最大限に引き出そう～

吉根中学校

実践テーマ

「自己決定できる」  
「チャレンジできる」  
子ども中心の学びを目指して



西陵高等学校

実践テーマ

自律して学び続ける生徒の育成  
～新たな学びのプロセスから考える「主体的・対話的で深い学び」の実現～



名古屋商業高等学校

実践テーマ

自律して学び続ける生徒の育成  
～産学官と連携による、実社会につながっているという実感を得られる授業の実現～

若宮商業高等学校

実践テーマ

生涯にわたって主体的に学び続ける生徒の育成  
～課題解決型学習を通じた「主体的・対話的で深い学び」の実現～



実践校園では、教職員の対話を通して教育目標を設定し、実践を行っています。また、現職教育で教職員のマインドセットや授業づくりの検討を行ったり、子どもたちの心理的安全性を高める学級づくりや学習環境の整備を進めたりしています。公開授業・公開保育を通じて、「子ども中心の学び」を市全体に広げていきます。

Collaboration  
つながるプロジェクト

共通した教育目標や教育課題などに対し、複数の学校園の連携による学び合いを図りながら、主体的に学びを展開するチーム実践を行っています。

実践チーム

幼小連携

常磐幼・常磐小

実践テーマ

チーム常磐を目指して  
～幼小連携「架け橋」プログラム～



春田幼・春田小

実践テーマ

幼児教育と小学校教育の  
学びをつなぐ



小小連携



味鏡小・西味鏡小

実践テーマ

「つなごうみんなの学び、  
つなごうみんなのこころ」

小特・高特連携

常磐小・西特別支援

実践テーマ

協働的な学びや関わりを価値を感じられる児童の育成  
～インクルーシブ教育システムの構築に向けた実践を通してできるつながり～



若宮商業高・若宮高等特別支援

実践テーマ

高等学校と高等特別支援学校の効果的な連携による魅力ある学校づくりの推進



小中連携

東桜小・山吹小・東白壁小・富士中

実践テーマ

子どもたちのウェルビーイングの実現を目指す9年間の在り方  
～エージェンシーに着目した活動を通して～



栄小・大須小・前津中

実践テーマ

人・地域・社会と関わりをもち、  
自他の良さに気づき、自分らしく生きるライフキャリア形成



八幡小・八幡中

実践テーマ

主体的な学びを通して  
思考し表現できる児童生徒の育成



稲永小・野跡小・大手小・港南中

実践テーマ

できる喜び楽しさを実感できる児童生徒の育成  
～ICTを活用した基礎学力の充実を図る活動を通して～



上社小・上社中

実践テーマ

思いを伝える・思いを受け止める上社の子どもたち



各実践チームでは、合同現職教育を行い目指す子どもの姿を共有したり、教職員の相互授業参観や子ども同士の交流を行ったりするなど、互いに密接に連絡を取り合いながら教育活動を進めています。未来社会の創り手である名古屋の子どもたちが健やかに育つことができるように、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで切れ目なく一貫して大切にしていきます。

# かいぜんプロジェクト

学校の当たり前を見つめ直し、子どもにとっても大人にとっても幸せな学校づくりを目指しています。

## 実践校園

学校 (取組例)	時間を大切にしよう	時間を生み出す取組	保護者・地域へ広めよう	管理職と働き方改革を推進するリーダー(推進者)養成のための学習会	実践校を対象とした伴走支援	希望する学校・教職員を対象としたテーマ別学習会
	チームで進めよう	教職員間のコミュニケーションを高める取組	保護者・地域との連携を進める取組	働きやすい職場環境に向けた支援	全体を対象とした取組	報告会取組紹介

## 小学校の取組



### 田代小学校

the ROOM プロジェクト  
～職場カイゼンが、学校を変える～

### 愛知小学校

児童も教職員も安心できる学校づくり  
チーム愛知

### 笠寺小学校

安心・安全・幸せで、  
わくわく楽しい学校づくり

### 中小田井小学校

よりよい子どもたちの成長と  
働き方改革の共存のあり方

### 相生小学校

だれもが「キラリ」と輝く  
相生小学校を目指して

### 星ヶ丘小学校

いきいきわくわく居心地のよい学校づくり  
一きらきら輝くみんなのアイデアを生かして～

### 菊住小学校

みんなが笑顔で過ごすことができる 菊住小学校  
～わたしたちにもできたよ!働き方改革～

## 中学校の取組

### 日比津中学校

スマイル&チャレンジ!  
～対話とアイデアで学校は変わる～

### 山田東中学校

学校変革プロジェクト

### 南天白中学校

Change・Charge・Challenge

### 大高中学校

ワークライフバランスを意識し、ゆとりある職場環境の中で、やりがいをもって教育活動にかかわる

## 幼稚園の取組

### 大幸幼稚園

～働き方を見直して、みんな幸せ!～



# つくりてプロジェクト

選抜教員が、国内外の先行事例の視察研究を生かし、学校運営改善や授業改善を行い、本市の新しい学校づくりをリードするクリエイターとして活躍できるよう支援しています。

## スクールクリエイター

令和5年度は  
オランダで  
研修しました!



名古屋市立愛知小学校  
校長 柴山 由美子

### 研究テーマと実践の紹介

#### 「子ども中心の学びに向けた意識改革をめざして」

子どもを中心とした学びの一層の推進のためには、教職員の意識改革が不可欠であると考えます。そして、その意識改革は、校長からのトップダウンで行うのではなく、教職員の対話を大切にしながら、一人一人がその必要性を実感したり、自分ごととらえたりしながら進めていくことが重要であると考えました。

オランダや国内の先進校を視察し、子どもを中心とした学びや校長のリーダーシップの在り方について学び、校内研修等を通して、教職員の意識改革に役立てることができました。

# イエナプラン教育 # ビジョンの共有  
# 学習する組織 # 教職員との対話



名古屋市立桶狭間小学校  
教務主任 岡部 太陽

### 研究テーマと実践の紹介

#### 「子どもも大人もわくわくする学校を目指して」

異学年外国語、体験を通して学ぶ道徳、学校リフォーム計画などの授業実践を担任に伴走して考えたり、互いの「つよみ」を見付ける現職教育をしたりして、子どもも大人もわくわくする学校にしていこうとする実践に取り組みました。

# 「頭が良い」って?  
# わたしのつよみは何だろう  
# あなたのつよみは何ですか  
# みんなで考えるのわくわくしますね



名古屋市立桶中学校  
教諭 中沼 暁

### 研究テーマと実践の紹介

#### 「多様な人と学び合い、社会で生きる力を育むキャリア教育」

社会人や大学生と学び合いながら探究していく学習方法を、キャリア教育の一環として取り組みました。生徒が自らの体験を通して感じた疑問について、多様な意見を踏まえながら考えていくことで、自分の意見を深めることができ、それを多くの人へ発信する力が身に付きました。

# キャリア教育  
# 多様な人と学び合う  
# 答えのない問いへ挑戦  
# わかったことや意見を発信



名古屋市立山吹小学校  
教諭 成田 真也

### 研究テーマと実践の紹介

#### 「対話的に合意形成や問題解決できるファシリテーターの育成」

サークル対話では、聴き合う文化や他者の意見を尊重する雰囲気づくりを大切にしながら取り組んできました。今の自分たちの雰囲気を取り戻したり、みんなで決めた学級目標に立ち戻ったりして、安心できる教室を子どもたちで創っていきました。

# みんなの顔が見える安心感  
# 話す参加、聞く参加  
# 聴き合う文化  
# 一人一人の価値を大切に



実践校園は、単に時間外在校等時間の縮減を目指すだけでなく、どのような校園、どのような子どもの姿を目指すかということを含め、学校運営全体の中に働き方改革を位置づけた取組を行います。実践校園では、教育委員会の伴走支援を受けながら、管理職以外の教職員を推進者として養成し、学校ごとに設定したテーマに教職員みんなで取り組んでいきます。

令和5年度は、14人の教員(校長、教頭、教諭(教務主任含む))が、特色ある教育実践を行っている国内外の先進事例の視察を踏まえて、学校づくり研究や授業づくり研究を行いました。また、研究内容については報告書にまとめるとともに、学習会などで発信をし、本市教育に還元しています。

# ひろがるプロジェクト

各校園で「子ども中心の学び」の考えが共有され、実践の幅が広がるよう、授業公開や有識者の講演、ワークショップ等を通して、教員のマインドセットチェンジやスキルアップ等を行います。

## 実際の取組

### 学習会

#### 「子ども中心の学び」に関する講演



#### 「アドベンチャープログラム」



#### 「ホワイトボードミーティング®を学ぼう!」



#### 「イエナプラン教育 ワールドオリエンテーション (探究的な学び)」



### 公開授業

#### 概要説明



#### 授業参観



#### 研究協議



学習会では、全国で活躍されている講師をお招きして、「子ども中心の学び」の具体について、様々な校種の先生や市外の先生、一般の方など、多様な人と学び合っています。

公開授業では、実践校園の授業参観の前に概要説明を行い、参観後には、参観者や授業者を交えた研究協議を行うことで、「子ども中心の学び」について理解を深めています。



NAGOYA  
School Innovation



名古屋市教育委員会事務局  
新しい学校づくり推進部 新しい学校づくり推進課

開庁時間 月曜日から金曜日  
午前 8 時 45 分から午後 5 時 30 分まで  
(休日・祝日・年末年始を除く)

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目 1-4 名古屋市教育館 8 階  
TEL : 052-253-7937  
URL : <https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/>

